

「税務調査を省略する制度」について

税理士 蛭田昭史

第27回

カンタン！経営管理は健康診断と同じ

前号で予告した「リアル分岐点を把握した後の経営管理の方法」を記載していきます。

皆さん、健康診断を受診されていると思います。健康診断の結果が出ると結果表をドキドキしながら確認すると思いませんか。この健康診断の結果表は医療関係者でなくとも一目瞭然で自分の健康状態が分かるように記載されています。

「比較対象」が大切

健康診断の結果表を見

かの方法を検討するハズです。

「比較対象」とは

前号で予告した「リアル分岐点を把握した後の経営管理の方法」を記載していきます。皆さん、健康診断を受診されていると思います。健康診断の結果が出ると結果表をドキドキしながら確認すると思いませんか。この健康診断の結果表は医療関係者でなくとも一目瞭然で自分の健康状態が分かるように記載されています。

この健康診断結果を受診しての前記の行動は経営管理も同じです。「PDCA」という言葉があります。P(計画を立てる) ↓D(実行する) ↓C(検証する) ↓A(改善する)を繰り返す事で経営状態を素早く把握し、経営体質を強化する方法です。

果の数値と大きく乖離した数値がある場合はドキドキしながら右側に目線が動きます。そこには「適正範囲の数値」が記載されています。今回の結果数値が適正範囲の内であれば安心しながらその数値の意味を確認することができます。たとえば、過去の健康診断で問題ナシの場合、今回の結果が過去の結果とほぼ同じ数値であれば、今回も問題ナシと判断ができて安心される事でしょう。

我々がお手伝いするのは、P(計画を立てる)はもちろんです。最も大切なのはC(検証する)です。このC(検証する)を具体的にどのように進めるのか、前記の健康診

断と照らし合わせながら読んでみてください。①過去の過去業績と今期業績を比較し、大きく変化した部分を把握する ②自社の今期業績と目標予算(事業計画)を比較し、大きく変化した部分を把握する ③変化の理由を探る ここまでが、C(検証する)です。健康診断と同じですね。変化の理由が判明したら、次はA(改善する)です。どのような施策を講じたら計画通りの結果を出せるのかを検討し改善計画をつくり実行します(その後はPDCAを繰り返します)。このように経営管理と健康診断が同じであることを説明すると、社長さんの理解も深まります。PDCAを繰り返す事で自社の財務状況や強み弱みを素早く把握でき、より良い経営状態につながっていくのです。

このように自社の財務状況をPDCAにより把握することで決算書も読めるようになります。改めて簿記の勉強をする必要もありません。さらに前号で記載した業績の縦切りである部門ごとの業績管理ができる経理体制を構築できていれば、C(検証する)をより深く検討することも可能です。

このように自社の財務状況をPDCAにより把握することで決算書も読めるようになります。改めて簿記の勉強をする必要もありません。さらに前号で記載した業績の縦切りである部門ごとの業績管理ができる経理体制を構築できていれば、C(検証する)をより深く検討することも可能です。

楽楽の練習など、皆さんは既に実生活でこのPDCAを実行されているのです。計画を立てて実行し、結果が出なければその理由を考え、別の方法に変更して更に結果が出たかを検証する。このサイクルを意識せずに行っているハズです。

「経営管理」と聞くと難しく考えてしまいがちですが、今回お伝えしたかったのは、前号・前号で記載した、業績を把握する自社のリアル分岐

点を把握できる業績の横切りの経理体制、部門ごとの業績を把握できる縦切りの経理体制、この二つの経理体制を土台としてPDCAを行っていくことで経営管理はキッチンとできる体制になるということです。皆さん、これを機にぜひチャレンジしてみてください！ 次回は、コロナ禍で経営状況が悪化している場合の打開策を記載していきます。



【事務所紹介】
蛭田昭史税理士事務所、顧問先数70社超で税務調査省略率100%!
東京都品川区西五反田7の22の17 T O Cビル11F、電話03-3490-3277
<https://www.hiruta-kaikai.com/>